

知道 CHIDO-KAIHO 会報

65

編集 知道会広報委員会
〒310-0011 水戸市三の丸3-10-1
茨城県立水戸第一高等学校内
発行人 西野虎之介
発行日 平成16年9月30日
通巻 第65号

目次	企画	「歩く会」の現在・過去・未来	2
	会員通信	みんなで書いた記録	3
	一高だより	「中長期構想」ほか	4
	同窓会・支部だより	みつば知道会ほか	6

11月6日(土) 常陽藝文センターで 会員の集いを開催

平成16年度(第54期)「会員の集い」を次の通り開催いたします。3学年による当番制も今年で3回目となり内容も充実してきました。

会場は、例年京成ホテルにおいて開催していましたが、今年は都合により常陽藝文センターに変更になりましたので、間違いのないようご注意ください。

先輩、後輩、多数のご参加をお待ちしております。出席される方は、同封のハガキで10月20日までに返信してください(欠席の場合は投函しないでください)。

日時/平成16年11月6日(土)
午後2時～5時15分
(午後1時30分受付開始)

場所/常陽藝文センター
水戸市三の丸1-5-18
電話029-231-6611
※水戸駅北口より徒歩8分

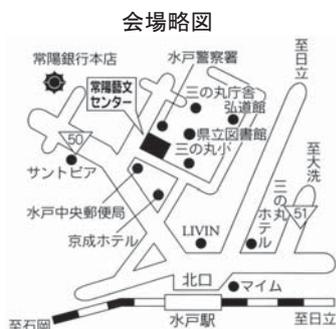
会費/5,000円

内容

《第1部 記念講演》午後2時～3時
講師:平勢隆郎(昭48卒)
演題:「孔子に関する不可解な伝説」



平勢隆郎氏



【講師プロフィール】

昭和29年8月生まれ。東京大学文学部卒。鳥取大学教育学部助教授、九州大学文学部助教授などを歴任。現在、東京大学東洋文化研究所教授

《第2部 ミニコンサート》午後3時～3時30分

演奏:飯泉昌宏(昭58卒)
アルゼンチンタンゴの調べをご堪能ください。



《第3部 懇親会》午後3時50分～5時15分



昨年の会員の集い

今年には昭和58年卒が担当します。お楽しみ抽選会等、楽しい企画を用意いたしました。

多数の方々のご参加をお待ちしております。

代議員会議を同時開催

第13回代議員会議を次の通り開催いたします。

各学年、地域・職域の代議員の多数の出席のもと、第54期の会務の審議をお願いいたします。

日時/平成16年11月6日(土)
午後1時～1時50分

場所/常陽藝文センター
7Fホール

議題

- 第53期事業報告
- 第53期決算報告
- 会計監査報告
- 第54期事業計画(案)
- 第54期予算(案)
- 役員改選
- その他

「歩く会」の現在・過去・未来

写真左から
 大内常男さん
 (大内工務店社長・昭43卒)
 枝 弘道さん
 (元水戸一高教諭・昭31卒)
 梅原匡史さん
 (本年度「歩く会」生徒実行委員・2年)
 井坂愛見さん
 (本年度「歩く会」生徒実行委員長・3年)
 平成16年9月17日 知道会館にて



■雨空見上げて発奮

枝 私の現役生徒としての体験は昭和28年から30年。歩く会の前身は昭和16年ごろから始まった「鍛錬行軍」。軍国教育だとして中止され、体育の細谷政一先生の提唱で歩く会が復活して間もないころだった。女生徒も少なくトイレは「そこら辺で適当にやれ」という大らかな時代。僕の1年目は勿来コース。完歩率は51パーセントでした。自由歩行は自分の荷物を風呂敷に包んで走った。トイレを我慢して走ったら途中で参ってしまった。農家の庭先に潜り込んでいたが結局先生に見つかってバスに乗せられた。苦い思い出です。

井坂 去年の歩く会は自由歩行の途中で強烈に雨が降って、「追い上げ隊」がペースを上げたので完歩率は少し下がりました。

枝 その後母校に勤め「歩く会実行委員長」を8年間、先頭を切って歩いた。途中で雨が降った年もあり、父兄から「この雨でやるのか」と電話がかかってきた。こういう時こそ当事者はより一層燃えるものです。

大内 私が入学した年は東海村、太田一高を経て本校に戻る循環コース。2年は矢祭山がスタートで、上小川で雨天中止になった。今思うとたいした雨じゃなかったが、生徒らは「何かなんでもいくぞ」と、先生方と団体交渉をやったわけですよ。柔道の松(廣義)先生がガードマンとして校長の前に立ちほだかってね。気持ちを踏みにじられた私たちは、その後何をしたらかという、本校に戻って徹夜でトランプやりました。おやつキャラメルをかけてね。

■行事を通じて成長する

井坂 1年の時から実行委員をやってきたので、

例年になく激しかった台風シーズンが過ぎ、今年もまた「歩く会」の季節がやってきた。多くの卒業生がある種の懐かしさを持って振り返る筆頭の行事だが、その一方で、一昼夜かけて約70キロの行程を歩くことに対し、「無用の長物」「時代遅れのアナクロニズム」「狂気の行事」といった悪評も存在する。しかしどんな思いはあれ、水戸一高の歴史を貫く伝統行事に違いない。本校卒業生の作家・恩田陸(おんだ・りく)さんが、「歩く会」をテーマに青春群像を描いた小説「夜のピクニック」(新潮社)が今年の夏に単行本として出版されるなど話題も多い中、OBと現役生徒が「歩く会」について熱く語り合った。

クラス仲間と歩いた経験がない。何年か前に歩く会の是非が問われてアンケートが行われ、先生方の予想以上に「やらなくてもいい」という意見が多かったそうです。楽しみにしている生徒もいるが、はっきり「意味がないよね」と言ってくる友人もいる。

枝 僕は水戸一高に勤務した最後の年は学苑祭が2日半から2日に短縮され、僕は元に戻そうと職員会議で意見を述べたら、見識がないと批判された。また生徒集会でははっきり「歩く会不要論」を言う生徒もいた。でも終わってみると一回りもふた回りも成長する。僕は行事によって成長すると思う。歩く会実行委員を務めながら現役合格した生徒も何人も知っている。教員仲間でも批判があるのは生徒から伝え聞いて知っている。「あの先生が『歩く会は狂気の行事だ』『時代遅れだ』と

言った」とかね。しかし行事を通じてすばらしい生徒が育っていることは強調したい。

井坂 おととしの委員長は東大、去年は京大に合格しました。自分も頑張らないと。

大内 社会に出ていろいろ苦労すると、あの時の苦しみが分かってくる。現在の自分と比べてみたりしてね。

* * * *

「時間の感覚というのは、本当に不思議だ。あとで振り返ると一瞬なのに、その時はこんなにも長い。一メートル歩くだけでも泣きたくなくなるのに、あんなに長い距離の移動が全部繋がっていて、同じ一分一秒の連続だったということが信じられない」(恩田陸「夜のピクニック」から)

* * * *

■「回り道」の良さ

井坂 恩田陸さんの小説「夜のピクニック」は、運動部でもない普通の女生徒が主人公。一般生徒の気持ちがよく分かった。作品の舞台は今年



井坂 愛海さん



枝 弘道さん



大内 常男さん

みんなで書いた記録

柳田 昭（昭20卒）

「娘に、戦闘帽ってなあに？と聞かれたよ」と同窓会で友の1人が言った。もう戦闘帽なんか見ることもない。イラクに派遣される自衛隊員も、迷彩したヘルメットをかぶっている。今はすっかり忘れられた戦闘帽をかぶって。入学から卒業までの私たちの体験そのものも風化し、忘れられていく。

憧れの制服・制帽も身につけることもできず、戦闘帽とカーキ色の服にゲートルを巻いて入学から卒業までを過ごさせられたのは、昭和16年入学の私たちの期だけであった。

しかもその4年間も、勉強は半分で、援農作業から飛行場整備、はては通年の工場動員に過ごしたことは、今では想像もつかないことであった。だがその4年間は、「人生20年」と言われた私たちにとっての、貴重な青春の足跡なのであった。

この4年間の私たちの体験は、後輩たちに経験させてはならないし、何としても後世に伝えていかなければならない歴史であると思い始めてから10年ほどたった。1人の見た、聞いた、行動した記憶よりは、多くの人々のそれらの集積の方が確かさを持つであろうという思いで、旧友に連絡を取り、原稿・資料を集めることにした。

50数年前の記録が集まるか、記憶が戻るかという不安は、1ヶ月ほどで杞憂に終わった。私の呼びかけを待っていたかのように、それぞれの立場での当時の体験、思い、夢が続々と送られて来たのだ。その彼らに励まされて、私の役割の、図書館での政府通達の調査、新聞の記録集による社会の状況、友達の記憶のすり合わせ、工場の元責任者とのインタビューも順調に進んだ。

かくして私たちの戦時下の青春の記録が立体的に構成された。この冊子はまさにみんなの協力で出来上がった「わたしたち史」であることにも、大きな意義を感じている。

発刊後の反応も、思った以上のものがあつた。これを通じて「わが子にも、孫にも伝えたい」と見も知らぬ人たちからの注文も多くあつた。

この「わたしたち史」の完成は、同窓諸兄をはじめ、周辺の人々の大きな理解と協力によるところが大きかったことに、衷心からの感謝を捧げたい。

戦闘帽をかぶった柳田氏
（昭和19年撮影）



行われる東海コースのような雰囲気なので、ぜひ皆に読んでもらいたい。

梅原 僕は去年、一般生徒として走りました。直前に走り込みすぎて足を疲労骨折してしまっ



梅原 匡史さん

た。自由歩行はリタイヤ覚悟で走ったが、痛みより疲れが辛かった。友人の励ましがありがたかった。歩き通したことで忘れられなくなった。決して歩くだけじゃなく、何かを得られる行事だと思った。

大内 日常生活から比べて極限に近い状態を体験することで何か得られるのでは。

井坂 去年大子コースで実行委員をやりながら、小休止で降るような星空を見上げて感動した。「こんなことは滅多にあるものじゃない。自分の人生でこの一瞬だけだ。水戸一高ってすごいんじゃないか」と、ふと思った。

枝 それぞれの歩く会だから、一人一人が考えて行動して間違えなければいい。

大内 とにかく歩いて感じてほしい。社会人になって歩いた苦勞が分かると思う。ぜひ存続してほしい。

井坂 今年の学苑祭初日に行われた演劇で、「歩くこと自体が目的で、そこに意味がある」といった台詞があり、いい言葉だと思った。歩く会は水戸一高ならではの行事。一見無駄な行為のようだけれど、その中にあるものが大切なのではと思う。また先輩や保護者の協力なしには成り立たない行事。大休止の場所にはたくさんの食べ物や飲み物があるけれど、生徒は当然だと思わずに感謝の気持ちを忘れないでほしい。自由歩行でも最低限の水を持つよう、呼びかけたい。

枝 確かに歩く会は合理的ではないでしょう。でも世の中に合理的でないものはたくさんある。回り道するといろいろなことが分かる。一人では生きていけないこと、助け合って生きること、意見の違う人と一緒に生きること。目標に向かって最短距離を狙うばかりが人生じゃない。回り道もいいものです。

EVENTS

- 5月
19日 第2回会員の集い実行委員会
29日 第12回代議員会議
第53期常任幹事会
- 6月
6日 第25回知道会ゴルフ大会
11日 県庁知道会
12日 常陽知道会
ボクシング部OB会
19日 土浦水中・一高会
26日 岩間町知道会
30日 親睦委員会（ミニ歩く会打合せ）
- 7月
4日 ミニ歩く会（千波湖周辺）
13日 水戸一高文化行事
松竹大歌舞伎鑑賞
（県民文化センター）
23日 財務委員会
30日 水戸みつば知道会納涼会
- 8月
1日 インターハイ（弓道部、フェンシング部出場）
4日 第3回会員の集い実行委員会
16日 水戸下市知道会納涼会
「備前堀灯籠流し」
21日 水戸新荘知道会
23日 第4回会員の集い実行委員会
昭和25年卒同窓会
25日 広報委員会
27日 水戸一高始業式
28日 昭和44年卒35周年記念同窓会
- 9月
11・12日 水戸一高学苑祭
12日 親睦委員会
13日 親睦旅行「木曾路をたずねて」
19日 昭和17年卒同窓会
30日 一知道会期末一
- 10月
9～10日
水戸一高歩く会「周回コース」
一高→涸沼→大洗→那珂湊
→阿字ヶ浦→東海村→一高
（約69km）

一高だより

水戸一高中長期構想

はじめに

昨今の教育改革の大きなうねりは、水戸一高にとっても真正面から受け止めなければならないものとなっている。本県において平成16年度は、共に創立90年を超える大子一、二高が統合され、県立高校がいよいよ減少期に入った象徴的な年となった。

26年前に刊行された水戸一高百年史の序文の中で、当時の張替勇校長が「今日、価値観の多様化ないし分裂の傾向が見られ、それに伴って教育特に高校教育はその意義、そのあり方を根本から問い直される機運にある。教育に関する国民的合意を得ること、今日ほど困難な時代はかつてなかったように思われる」と記していたが、張替校長の当時の認識及び見解は、当時から四半世紀経過した現在、教育改革のうねりとなって現実化している。

この間、教育を取り巻く諸状況は更に変化し、とりわけ生徒数の減少は最大の要因であり、高校教育に関する国民的合意を得ることの困難さを増大させている。

本校においても当時の生徒数1,229人（男子996、女子233）から、今年度980人（男子572、女子408）と、生徒数で20%減、男子数で43%減、女子数で75%増と大きく変化している。このような中、水戸一高のこれからの役割は何か、が問われる時代となっている。

そこで、水戸一高の歴史的、社会的関係性を踏まえ、現時点で見える成果や実績及び問題や課題を明確にし、現状維持というのではなく、水戸一高の新たな充実のために、今後3～10年を意識した中長期構想

を策定した。以下その概要を御紹介し、知道会会員の皆様の御理解と御協力をお願いする次第である。

「中長期構想」の概略

「実現可能性」、「質の高さ」の2語をキーワードにし、この2点のバランスを取った方策を実行したいと考えている。

(1) 目指す生徒像

校是とは別に、これまでの本校教育方針や就学の目標等を集約し、「自己の目標の実現を目指し、社会性と自己決定力を身に付け、社会に貢献できる人材」として掲げ、目指すべき本校教育の目標とした。

(2) 具体的施策

ア ハード面

① 講堂建設（本校敷地内。収容人数330人）

1学年330人程度が入れる講堂において、学年単位の講義・講演等を実施したい。講堂であれば、平日ばかりではなく、土曜日等でも定期的に卒業生や地元大学の教員等の講演会を開催することなども可能となり、水戸一高の発信する文化の一つとなると考えられる。

② IT環境の整備

③ 少人数学習のための教室整備

イ ソフト面

① 学習指導・進路指導の進化

来年度からの単位制移行が新たな段階への進化である。本校ならではの学校設定科目を設定し、それぞれの分野において能力の高い生徒、意欲ある生徒をさらに伸ばすようにしたい。

校内において活発に授業研究を行う風土を醸成して常によりよい授業を目指すようにしたい。その際、独善に陥らないよう、地元の大学（筑波大学、茨城大学等）と提携をして研究を進めていきたい。

一高だより

PERSON

また、水戸一高の良き伝統を継承し、現在の水戸一高生としてどのような気構えで3年間を送ってもらいたいのか、新入生時にできるだけ集中的に系統的にオリエンテーションを行う。

② 地球環境への取り組み

人間の活動が地球規模で環境に影響を与えてしまうようになった現在、将来を生きる世代に対し、現在を生きる我々がどのように地球環境を受け継いでいくのか、本校生がその点に思いをいたし、何らかの取り組みを行うことは本校にとって重要なテーマである。本校のカリキュラム(例えば「総合の時間」、LHR)に位置付けることなども考慮する。

③ 卒業生との定常的交流

現役生に関わることができる卒業生のデータベースを構築し、必要に応じていつでも交流あるいは情報提供が見込めるようにしておく。現実の若い社会人から直接話を聞けるのは得難い経験であり、動機付けとして大きなものが期待できる。現役生は先輩から様々な情報等の提供を受けることにより、本校生として恵まれた立場の自覚を持ち、先輩は現役生へ情報等を提供することにより、母校を同じくする世代を超えた関係を築くことができる。この関係が利害を超えて人間的な大きな力となると考えている。

④ 留学機会、社会体験機会の拡充

自国以外の国に目を向け、異文化との接触の機会を持つことは多感な高校の時期にはとりわけ必要なことである。海外への留学ルートの確保や海外派遣機会の設定等学校として常に外国への窓を開けておく必要がある。具体的にはアジアに目を向け、今後益々相互依存の関係が大きくなると予想される中国を想定したプロ

グラムを準備したい。知道会からは、人を紹介頂き、案の検討を始めたい。

社会体験については、成育過程で不足していると指摘されている体験活動を自分で計画し実行することで、社会性、ソーシャルスキルといったものを身に付けさせたい。

⑤ ボランティア機会の設定

自らの意志で、無償で、他者のために行動することは、人と人、人と社会、人と自然の関係を成り立たせる重要な要件に出会い、そして気付く契機となると考えられる。将来、様々な分野で活躍が期待される本校生には、是非とも経験してもらいたいものである。

そのため、学校として正式なプログラムに位置付け、多くの生徒が経験できるような環境を作りたい。

おわりに

本校の教育はユニークな事業や行事で彩られている。また、水戸一高の歴史を振り返ると、その時代その時点で考えられる先進的分野に目を向け、結果を出している。歩く会、学苑祭を始め65分授業、自主選択制、インドネシア生徒派遣などは画期的であったし、その先見性、独自性は胸を張れるものであった。

しかし、現在では65分授業も選択制も普通に実施されてきているものの一つであり、訴える力は弱くなってしまった。

新規事業を構想しないといけないとマンネリズムに陥り、活動が不活発になる。独自の何ものかを立ち上げることも必要である。他にはないものを立ち上げることの緊張感やプライドが学校として求心力を生みだし、よい結果をもたらすものと思う。水戸一高の新たな充実のために、この中長期構想の実現を目指していきたい。

全日本吹奏楽コンクール課題曲に入選

毎年夏に開かれる全日本吹奏楽コンクールの05年度課題曲に、本校1年在学の佐藤君の作曲した作品「サンライズマーチ」が決まりました。119の応募作から選ばれた5曲中の1曲です。高校生の入選は、72年に課題曲の公募が始まって以来、2人目の快挙であり最年少受賞でもあります。



曲の題名「サンライズマーチ」は、朝日のさわやかなイメージから付けられ、約3分半の明るい曲で約1ヶ月という短期間で書き上げられました。

一次審査通過後の6月から、試奏審査、楽譜の手直し、リハーサル、そして録音・録画を通して、各楽器の効果的な使い方や楽譜の書き方など作曲に関する様々な事を知ることができたことは、大変貴重なことです。

佐藤君は、今、本校吹奏楽部でチューバを吹いて日々活動していますが、普段何でもない時にふと思いついたメロディーを書きとめ、あとでコード付けやイメージを膨らませることも忘れていません。

留学生 Olivia Olmsted さんが来校



AFSのセメスタープログラムで、アメリカ合衆国ワシントン州シアトルからOlivia Olmstedさんが8月に来

日しました。来年2月までの半年間、25組の一員として学校生活を送ります。

シェイクスピアを愛する文学少女でもあり、またアイリッシュダンスが得意な活発な一面も持ち合わせています。地元の動物保護施設で週に一度ボランティア活動もしています。

将来就きたい職業は薬剤師、心理学者、インテリアデザイナー、犬の調教師と多くの選択肢があります。

今回の留学は、自身の人生観、世界観、そして自分にとって何が重要なのか、といったことを考える絶好の機会だと話していました。

みつば知道会第9回納涼会

今年の夏は異常な暑さ続きであったが、みつば知道会のメインイベントである恒例の納涼会は7月30日(金)に会員・家族の方々40数名の参加をいただいて行われた。

今年は生憎と台風が接近していることもあり、当日は朝から雨が降ったりやんだりのぐずついた天候で実施に大いにまどわされた。

飯村副会長等の幹事団の決断で昼の12時に開催を決めたが、依然として雲は低くたれこめていて気をもんだが、天候も次第に回復し時刻にはさわやかな日和となったのは幸運であった。

納涼会の開始は午後6時半からであるが熱田先輩(昭29卒)、川上先輩(昭29卒)の奥様等会場の設営やバーベキューの買出しで2時頃から準備をされており、本当に頭が下がる思いである。

いよいよ納涼会の開始である。冒頭に潮田会長の挨拶。「わたくしごとであるが、6月末に永年つとめた潮田三国堂(株)の名誉会長を退いた。今後は趣味をいかして自分の人生を歩みたい」

いつも会場を提供していただいている高木ドクターの挨拶。「先頃CDを出したが、思い出のムルデカ・サッカー大会で作詞をしたものを今回ジャズシンガーの星野由美子さんの作曲でデビューしたが、のちほど彼女に演奏にあわせて歌ってもらおう」とのこと。思わぬビッグな紹介に会員も大喜びである。

バーベキューはもっぱら奥様方が中心となって作ってくれる。味付けもよし、たちまちのうちに料理もはかどっけていき、とくに肉の売れ行きがいいようである。バーベキューの焼きソバは安嶋氏(昭42卒)の出番で、鉢巻を巻いた手さばきは年季が入っている。

いつも高級ワイン、日本酒、焼酎を

差し入れてくれる大内幹事長(昭29卒)、高木副会長(昭30卒)、青葉歯科の金沢院長(昭49卒)ありがとうございます。あらためてお礼を申し上げます。

みつば知道会の納涼会は毎年7月最終金曜日に行っていますので他の支部の方も是非参加してください。大歓迎いたします。

堀江 効(昭34卒) 記



バーベキューをつくる奥様方

常陽知道会

常陽知道会は、毎年恒例の総会を去る6月12日(土)、水戸市の三の丸ホテルにおいて開催しました。

当会は、常陽銀行ならびに関連会社の在職者・OBで構成され、総会員数が441名にのぼる大所帯となっております。

今年度の総会は、120名有余の参加を得て、当会副会長の秦雅博氏(昭43卒)の開会の辞に続き、会長の宮永芳行氏(昭43卒)から「現在東京に勤務しているが、地元のことをもっと勉強して、県内外の方々にPRしていきたい」との話があり、鯉淵逸夫氏(昭37卒・常務取締役)の音頭で乾杯が行われました。

当日は、母校より稲葉校長先生、知道会より大川事務局長にお越しいただきました。稲葉校長先生からは最近の学生気質や新しい取組みなど母校の近況報告をいただきました。時代の流れを感じる一方、昔と変わらぬ母校の姿も垣間見られました。

さて、本年度は合計5名の新入会員を迎えました。司会から紹介の後、場

内からは新入会員に対して盛大かつ暖かい拍手が送られました。

懇親会の部では、新入会員より高校時代の活動や現在の仕事など、自己PRが行われた後、一同の若々しい歌声が披露されました。

所用により遅れて到着した当会名誉会長の西野虎之介氏(昭23卒・取締役会長)も加わり、若手・先輩が入り交じり親睦を深めました。歌手デビューを果たした藤枝建夫氏(昭41卒)が持ち歌「人情酒場」を披露するなど会場は大いに盛り上がりました。

校歌斉唱の後、宮永会長自らがエールをきり、副会長の川又幹夫氏(昭45卒)の閉会の辞をもって本年度の総会も盛況のうちに無事終了いたしました。

県庁知道会

平成16年6月11日、水戸三の丸ホテルにおいて平成16年度「県庁知道会」総会が開かれました。

当日は、名誉顧問の橋本昌茨城県知事や手塚克彦元県議会議員をはじめ、西野虎之介知道会会長、稲葉節生水戸第一高等学校長など御来賓の方々を含め、総勢170名が参集しました。

県庁知道会の会員数は、平成16年度現在で約600名。毎年開催される総会では、知事や県議会議員から、採用されたばかりの若手職員まで、幅広い世代が一堂に会し、会員同士の親睦を深めています。今年度の総会も盛大に開催され、年代を超えた交流が大いに図られたとともに、明日のよりよい茨城づくりについて、参集者一同決意を新たにしました。

昭和44年卒業生35周年同窓会

去る8月28日、昭和44年卒業生35周年同窓会が開催されました。森田代表幹事を中心に打合せを行い、1月から計4回のクラス代表幹事会を開き、開催に至りました。

当日は、三の丸ホテルにおいて、在学当時お世話になった6名の恩師、大川知道会事務局長、稲葉現校長のご出席をいただき、112名の同窓生の参加を得て同窓会を開催することができました。

まず、同窓会の冒頭に物故者に黙祷を捧げ、次に来賓の挨拶をいただき、その後、懇親会へと会は進みました。なお、開会に先立って参加者の集合写真を撮影し、散会時には参加者全員に手渡しました。

懇親会では、語るほど、飲むほどに盛り上がり、参加者全員が在学当時を想い起こし、語り合った3時間となりました。

最後に、当時の応援団員のリードに、声を合わせて校歌を歌い、各クラスごとに二次会へと流れていきました。

(文責 桐原)

ボクシング部OB会定期総会

水戸一高ボクシング部OB会の第3回定期総会(懇親会)が、平成16年6月12日(土)午後3時から水戸駅北口の三の丸ホテルにおいて開催されました。

鈴木洋一会長、福田実副会長、山形晴一、雨谷正巳、菅谷輝夫ら各幹事など、全国から三十余名が出席し、盛大に行われました。今回初めての出席者も何人かおられ、在校時代の練習や試合などを懐かしく語り合いました。

なお現在、水戸一高のボクシング部は、部員1名ということで寂しいですが、選手として有能な人材ということで、OB会としても後援することに合意しました。

今後も毎年総会を行いますので、元部員でまだ出席されていない方は、本会参与の知道会事務局長大川英治氏まで住所、氏名などをご連絡ください。名簿に登載し、総会の案内をお知らせいたします。(年会費2000円)

(昭31卒 菊池興安記)

ゴルフ大会開かれる

去る6月6日(日)、第25回知道会ゴルフ大会が笠間東洋ゴルフ倶楽部において盛大に開催されました。

今回は例年の大洗ゴルフ倶楽部を離れ、日曜日に設定し、できるだけ多くの会員の皆様に参加いただけるよう考えましたが、この時期はいろいろな大会や会合があり、重複のため残念ですが80名の参加となってしまいました。昭和20年卒の大先輩から昭和59年卒の若手まで、老いも若きも和やかにプレーを楽しみ、親睦を深めることができました。成績は次のとおり。

レギュラーの部

優勝 砂押 博(昭36卒)

準優勝 松山雅顕(昭44卒)

シニアの部

優勝 平野逸夫(昭32卒)

準優勝 川崎正之(昭30卒)

第1回ミニ歩く会実施報告

母校の歩く会は約70kmとかなりハードな行程で実施されていますが、知道会では高齢者から子供まで参加できるミニ歩く会を企画し、去る7月4日、好転に恵まれ実施いたしました。

特に整備が進み美しくなった千波湖周辺から逆川緑地を経て笠原水源にいたるコース約8kmとしました。

今回は第1回ということで何人くらい参加者がいるか不安でしたが、家族連れでお孫さんの手を引いて参加された方もおり、70名が参加して盛会となりました。

出発にあたり、山形幹事長のあいさつ、水戸ウォーキングクラブ会長の川上清氏(昭29卒)から歩行中の注意事項の説明のあと準備運動を行い、全員元気に出発。途中、逆川緑地の休憩地点では飲物やスイカのサービス等もあり全員元気で完歩。ゴール地点で記念の水戸一高ピンバッジと昼食のお弁当を受け取り散会となりました。

来年からも継続して実施したいと考えておりますので、さらに参加者の増えることを期待しております。



ミニ歩く会出発風景

和気あいあいの親睦旅行

9月12日(日)～13日(月)

日本の歴史と文化を訪ねる旅「江戸の面影を残す宿場町散策」は、24名の参加者を乗せて水戸駅南口を出発しました。

バスはトイレ付きで快適そのもの。常磐道から中央道経由の片道400キロを超える道程を、和気あいあい一路木曾路に向け進みました。

島崎藤村の生家があり、小説「夜明け前」の舞台となった馬籠宿を散策。続いて江戸の面影を残す宿場町、歴史的町並み保存地区に指定された妻籠宿。お土産に「栗きんとん」を購入。今夜の宿、鬼神温泉に向かいました。

湯量豊富な鬼神温泉で散策の疲れを癒

した後、お楽しみの懇親会では、今回初参加のW氏によるアトラクションが披露され、親睦旅行始まって以来の大騒ぎとなりました。

翌日は飯田市へ。伝統の水引工芸実演見学の後、希望者にはブローチ作り体験も楽しんでいただきました。その後、希望者のみの参加でしたが(17名)、心に響く檐音と豪快な水しぶきの天竜船下り、市内にて昼食の後、帰路につきました。



委員会

総務委員会

今年の夏は記録的な猛暑、9月になったら涼しくなるのかと思ったがまだ暑い。熱いといえば、日本選手の活躍によるギリシャオリンピックのメダルラッシュには熱くなりましたね!!
閑話休題

一昨年から担当学年を決めて、「会員の集い」の企画立案（講演会講師選定・ミニコンサート）、受付・進行を行うことで「集い」も活性化されてきたように感じます。

「参加することに意義がある」とはクーベルタン男爵の名言ですが（現状は??）、「会員の集い」は参加することに意義があるだけでなく、先輩あるいは後輩との出会いのなかで水戸一高（水戸中学）を通じた人間関係の輪を大きく広げることができます。（不思議なものですね。水戸一高という学舎を同じにしたことで年齢差なんて関係なく仲間としての意識にすーっとなれます これは独り言）

今年の知道会代議員会と「会員の集い」は11月6日に開催されますが、会を立錐の余地もないほど熱い「集い」にできるよう一人でも多くの参加をお願いいたします。

6月6日(日)、笠間東洋GCで知道会ゴルフ、7月4日(日)には千波湖周辺でのミニ歩く会、何れも100名弱の参加者を得て行われました。つい先日、9月12・13の両日、馬籠妻籠の宿を見学する1泊2日の親睦旅行を終えることができました。

幸い3つの行事すべて天候に恵まれて、参加者にも喜んでいただき、何よりも事故がなく、無事楽しくできましたこと、御協力頂きました皆様方に、心から感謝する次第であります。欲を申しますと、今年度からスタートしましたミニ歩く会に女性の会員の参加が少なかったことです。今年は7月から既に真夏日に入っており、女性の方には日焼けを心配されたのではと考えております。次年度からは涼しい秋、11月の後半に予定しておりますので、是非大勢の方の参加をよろしくをお願いいたします。

親睦委員会

事務局だより

▲少子・高齢化が急速に進んでおります。私もまだまだ、と思っているうちに高齢者の仲間入りをしてしまいました。

最近、高齢者によるスポーツ大会が盛んです。私も幼少の頃より親しんでいる野球に取組んでいます。全国還暦軟式野球連盟により毎年全国大会が盛大に開催され、今年で還暦の部が20回、古希の部が14回を数えます。全国に約300のチームがあり、本県にも還暦18チーム、古希3チーム登録され、全国でも盛んな地域の一つです。

▲水戸一高も本年は創立126年目の年にあたります。知道会会員も高齢者から若い世代まで幅広い会員を有する、壮大な団体です。会員の皆様が健康でご活躍されることを願っております。なお、知道会報への寄稿もお待ちしております。

今年もまた6000人の会費徴収を目標とするも、残念ながら達成できずに終わりそうである。

現代は、あらゆる組織で会員制をとっているため、皆さん方としては義理も加わり、すべてを合算すれば相当の会費を払っていることになると思う。

そうした中で、知道会に対する思いの深さから会費を納入して頂いているので、感謝に堪えないのであるが、一方、知道会からの発信も必要である。これが知道会報や、知道会の集いであり、その内容の充実が問われるわけである。

我が財務委員会としては、これらの活動をより充実させるために、目標をクリアできるようお願いしたいと思う。今の勧誘の主体は、各学年の代議員であるが、我が職場を見ても、入っていない諸氏が結構いる。正に灯台下暗しである。こんなところを職場内で確認し合って頂ければ有難いと思う。

最近、金融機関や各種団体等から個人情報漏洩のニュースが報じられることがあります。その裏では、この種のデータが売買されているのでは、との疑念を持ちたくなります。

同窓会とはいえ、名簿発刊にかかわる立場の者として、会員の皆様の情報の機密保持には充分注意をはらって作業を進めるよう心掛けております。毎回名簿発行時の販売方法としては、卒業生限定の予約販売としておりますが、約5000～6000部の申込みがあります。

その販売先の使用目的まで管理することは不可能です。名簿を発行しますと、必ず種々の業界からの勧誘などの苦情が寄せられますが、対応策についても各個人で考えていただく以外方策がありませんので、会員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

次回の発行は平成19年に予定しておりますので、その節はよろしくをお願いいたします。

財務委員会

名簿委員会

編集後記

▲世の中、「IT推進」が叫ばれているが、我が知道会報にもその波が押し寄せている。これまでは、手書きの原稿を前に、1行何文字で何行になるか、電卓片手に鉛筆と消しゴム、定規を駆使しながら割付用紙と格闘していたもの。

今、会報のA4判化とともに、パソコンの画面に向かっての作業となった。鉛筆も消しゴムもいらぬ。全部画面の中で済んでしまう。

とは言っても、そこはやはり精密機器。ちょっと間違うと、すぐに機嫌を悪くしていわゆる“固まる”ってことになる。この号も、作業中何度固まったことか…

▲まだ慣れない作業ゆえ、読みにくい点はご容赦願ひながら、あたたかく見守ってください。(広報委員W)